

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104720
法人名	有限会社ノリテック
事業所名	グループホームひがし野
所在地	松山市畑寺町丙68-1
自己評価作成日	平成 27 年 1 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流に力を入れている。地域の行事(祭り・文化祭・清掃作業等)に利用者様と一緒に参加し交流を深めている。又、保育所や小中学校との交流も積極的に行っている。事業所・職員の都合を押しつけることなく理念に基づき、一人一人の訴えや要望に耳を傾けご家族に相談しながら、少しでも要望に応えられるよう個別ケアにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「誠心誠意」という基本理念を基にして、利用者の立場に立ってケアを実践する事業所として約10年間の実績を積み上げている。地域との交流を大切に、神社の掃除や地区行事への参加などを継続している。さらに、事業所の近くには、地域の子供達が集まる駄菓子屋を備えているデイサービスを運営しており、地域住民にとって必要と感じられる地域密着のサービスを展開している。管理者と職員は利用者への関わり方に気を配りながら、家族と感じてもらえるような関わりを行うなどアセスメントや利用者の思いを踏まえたケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひがし野

(ユニット名) なのはな(1F)

記入者(管理者)

氏名 泉 三男

評価完了日

27 年 1 月 5 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 朝礼・月2回のカンファ時に参加職員全員で斉唱し、理念を念頭においたチームケアの実践に努めている。	
			(外部評価) 「誠心誠意」という基本理念と5つの項目を作成して各所に掲示し、理念に沿った個別ケアを実践できるよう各ユニット長と職員が話し合いを持っている。また、月間目標を職員主導で立案し、管理者はアドバイスをしながら日々個別ケアに取り組む仕組みができています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の祭りや文化祭に参加している。重度化してきた為、以前行えていた神社の清掃、運動会への参加等が難しくなっている。	
			(外部評価) 自治会に加入し、神社の掃除をしたり地域行事に参加したりするなど地域との交流を大切にしている。事業所には回覧板も回ってきており、地域の一員として認識されている。また、三味線やフラダンスなど幅広いボランティア団体の訪問があったり、地区の運動会にも参加したりするなど地域とのつながりを深めている。保育所や小・中学校との交流があり、職員は昔遊びを教える先生として喜ばれている。さらに、事業所では地域の高齢者との交流会を実施しており、幅広い世代との交流にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議に、地域の方やご家族の方に参加していただき、認知症への理解を深めていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月に一回運営推進会議の場を設け、地域の方や民生員・包括支援センターの職員さん等にも参加していただき、テーマを決め話し合いを行い、ご意見をいただいている。	
			(外部評価) 運営推進会議は民生委員、市担当者や地域包括支援センター職員のみならず、利用者や家族が複数名参加して開催されている。会議は夕方開催し、同法人が運営するデイサービスを使用している。会議では事業所に関する情報提供を行うほか、毎回議題を決めて参加者と話し合い、話し合った結果を次の会議で報告している。また、会議に合わせて認知症に関する勉強会を開催する工夫をしている。幅広く参加者が得られるよう、管理者は近隣住民への参加の呼びかけを検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、ホームの状況や取組みを伝え、積極的に意見交換を行い連携を蜜にしている	
			(外部評価) 運営推進会議に市担当者や地域包括支援センター職員に出席してもらい意見交換をしているが、長年に渡り事業所運営をしているため、相談や情報提供の関わりは少なくなっている。地域包括支援センターとは介護支援専門員が連携し、相互の情報提供ができている。	市担当課との連携は重要であり、積極的に相談や情報提供をするなど相互の協力関係が構築できることを期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所内の研修でも取り上げ、身体拘束に対する理解を深め実践している。	
			(外部評価) 玄関は夜間のみ施錠し、日中は利用者は自由に入出ることができる。管理者は身体拘束に関する職員への意識付けを行いながら日々の業務を実践しており、職員から利用者への言葉かけや表情、態度にも気をつけるよう注意を促し、笑顔で接するよう努めている。職員が身体拘束等の外部研修に参加した内容は、カンファレンスなどの際に伝達研修を実施し情報を共有している。	身体拘束防止や感染症に関するマニュアルなど古いものを使用しており、最新の情報を入手した際には情報を更新して活用することを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加して施設内の研修に活かし、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加しやすいように、希望がある場合はシフトの調整をし、学べる機会が増えるようにしている。また、学んだ内容を共有できるように勉強会も開いている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に契約書をもとに説明し、疑問や不安な点があれば丁寧に説明し納得していただけるよう配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月ADLや日頃の様子を写真付きの書面で報告し、ご意見ご要望を確認している。要望等があれば全職員が把握し共有できるように努め、可能な限り叶えられるようにしている。	
			(外部評価) 事業所には家族の面会が多く、職員に話しやすい雰囲気や関係づくりを心がけており、直接意見を言ってもらうことが多い。昨年の12月には家族へのアンケートを実施し、ご意見や感謝の言葉を多くいただいている。出された意見は運営に反映するよう努めている。また、家族には毎月写真入りの便りを添えて日頃の様子を書いた手紙を送付している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンス及びユニット会議、運営会議等で職員が意見できる場を設けている。	
			(外部評価) ユニットカンファレンスやミニカンファレンスの開催時に職員から意見を聞いたり、意見ノートなどを活用して日頃から意見を聞きやすい工夫をしている。年1回職員との個人面談を実施しており、その際に意見を伝えることもできる。職員から出された意見は、月1回の管理者会に報告し、職場の方針や問題点などを話し合い、改善の方向で検討をする場が設けられている。また、新入職員への研修、認知症、マナーなどの勉強会を定期的実施し、職員のスキル向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個別面談を行い代表者と話し合う場を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) カンファレンス時等、外部から講師を招いたり、スタッフ同士で勉強会や研修会を行っている。又、外部での講習会などにも参加できるように取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修に参加し互いに改善点を見つけたり、サービスの質の向上に努めている。近隣のG・Hと情報の交換や行事の案内・参加などを行い交流を深めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様の生活環境や状況を把握、普段の状態を観察し要望や訴えに応じられるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にご家族の意向本人の生活歴・趣味・嗜好等詳しく話し合い、不安や疑問の解消に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人とご家族の意向や要望・生活歴等を十分に理解し必要な何かを見極めできる限りご希望に即した対応を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の今までの生活を考慮し、出来ることできないことを把握して、本人がやりたいことを見つけスタッフが一緒に行っている。出来ること、行っていた事を奪わないように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所持や月1回手紙を送り本人の状況や課題等の情報共有をしている。又、なにか変化があれば都度電話報告しご家族の意見を尊重し支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や知人の面会を受け入れ、外出外泊ができるよう支援している。普段の会話の中で昔の話をしたり、居室に写真を飾るなどしている。	
			(外部評価) 知人や友人の面会があり、快く受け入れをしている。利用者の希望に応じて、友人宅を訪問できるよう支援しており、相互に行き来できる関係も支援している。また、利用者の自宅や生家の近くに出かけられるよう支援しており、自宅へ帰宅しての宿泊や外泊を自由に行うことができる。事業所には昔ながらの公衆電話が設置されており、家族等に電話できるよう配慮されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクレーション等を通じコミュニケーションが図れるよう支援し、入居者同士がトラブルになりそうな時は、必ず職員が間に入り話を傾聴し、未然に防ぐよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も相談がしやすいように声掛けを行い、多施設に移った場合でも電話連絡や訪問にて経過の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一対一で話ができる機会を作り本人の思いや希望・以降などを聞き取り入れるようにしている。困難な場合にも生活歴や日々の気付きを共有し検討対応している。	
			(外部評価) センター方式を活用し、利用者として1対1で話せる場を設け利用者への聞き取りをしてアセスメントをしている。各ユニットで利用者毎の「職員にして欲しいこと、自分でしたいこと」などに視点を絞った支援にも取り組んでおり、カンファレンスの開催時に利用者毎の担当者が紹介して情報を共有し、利用者の思いを実現できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントにてこれまでの暮らし方などを把握し、今まで使用していた家具や置物を設置することで環境の変化をできる限り少なくするよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタル測定時や日常生活の中で気付いたことを生活記録に記入し、情報の共有を図り必要に応じてカンファを開き、現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のモニタリングとカンファレンスだけではなく、変化があれば都度意見を出し合い現状にあった介護計画を作成している。 (外部評価) モニタリングの方法を昨年7月に変更し、モニタリングの内容や日々の情報を基にしてカンファレンスで検討している。利用者毎の担当者が毎月モニタリングの判断をしているが、カンファレンスの際に他の職員から別の意見が出されることもあり、検討の結果介護計画が変更されない場合もある。また、6か月に1回介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録に変化や気付気を記録しスタッフ全員で共有実践している。又、ケアプランに沿った内容には印を付け、計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 毎月カンファレンスとユニット会議で話し合いニーズに応じた対応ができるよう努めている。又同事業所のデイサービスと交流する等柔軟なサービス提供に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内行事の参加や、買い物など本人の状況に応じた釈迦参加ができるよう支援し、学校・保育所との交流や外食外出も定期的に行い、生活に楽しみが持てるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関に定期的に往診に来ていただき、健康管理に 努めている。又、本人・家族の希望する医療機関にもス タッフや家族の動向にて受診できるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を選択することがで きる。受診は家族の同行を基本としているが、同行できな い場合は職員が受診介助している。また、往診の対応がで きる協力医と協力体制が整っており、協力医をかかりつけ 医に変更する利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気付いた事や気になることがあれば、協力医療機関に連絡 し報告相談し指示を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関との情報交換や相談など連携を密にして利用者様 が早く再入居できるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階で協力医療機関の医師・家族・スタッフで話し合 う場を設け、今後の方針やターミナルに向けての話し合い を行い、医師からの説明、ご家族の希望等を確認してチ ームとして支援できるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、利用開始時等に事業所 として対応できる内容を説明し、必要に応じて同意書をも らっている。今までに事業所で3名の看取りを経験してい る。協力医である在宅往診医と連携し、急変時には医師が すぐに駆けつけられる協力体制が整えられており、医師か ら対応方法についても指導を受けている。また、看取りや 緊急時の対応マニュアルを作成し、家族を交えて終末期の 関わりなどの話し合いができており、職員の負担の軽減に も繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作成している。また、応急手当などの初期対応の訓練や勉強会も定期的実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の対応マニュアルを作成し、年2回消防訓練を行い避難方法等を学んでいる。 (外部評価) 避難経路のマップを整備しており、消火器も目に付く場所に置いている。消防訓練や避難訓練への地域住民の参加はないが、住民は事業所に地域の福祉的避難所としての機能があることを理解している。徘徊で事業所の外に出るケースを想定した模擬訓練も実施し、10分以内であれば利用者を発見できる体制を整え、利用者を探すための写真などもすぐに用意できる体制を整えている。	夜間の災害発生など、職員だけでの利用者の避難誘導には限界があると考えられるため、夜間を想定した避難訓練に地域住民への参加を呼びかけ、一緒に訓練できることを期待したい。また、地域住民などの協力者を得ることにより、利用者や家族、職員、地域住民にとって安心安全な地域での生活に繋がることが考えられる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 事業所理念に基づき、利用者様一人ひとりを大切に考えその人らしい生活が継続できるよう努めている。 (外部評価) 居室の入口やトイレ、浴室のドアは必ず閉めるようにしている。トイレ誘導は小声で「ちょっと一緒に行きましょう」などと声かけし、他の利用者に気づかれないよう配慮している。トイレ介助など職員が1対1で行い、利用者のプライバシーが保たれるよう努めている。管理者等は言葉かけに関する意識が高く、普段から注意を促すことで利用者の尊厳が保持される支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いや希望を傾聴し、出来る限り叶えられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様一人ひとりのペースに合わせてその人らしい生活が送れるように職員同士が情報共有して支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で洋服やアクセサリを選んで頂き、本人の希望を取り入れた更衣・整容に努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好みを把握し食材や味付けに工夫し、ワンパターンにならないよう心掛け、会話をしながら職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
			(外部評価) 普通食、きざみ食、トロミ食など利用者の状態に合わせた食事を提供している。献立を事前に作成せず、その日毎にメニューを決め、利用者ができることを手伝ってもらいながら職員が調理している。利用者が嫌いなものがある場合は、別の食材を使う対応をしている。利用者は同じ食卓を囲み、職員と一緒に会話をしながら食事をしている。食事の時間帯には童謡や民謡などの音楽を流し、ゆったりとした雰囲気づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) その人に合った食事形態にし、摂取量が少ない場合は、その人の好みの飲み物や食べ物を進め摂取量の確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアが定着しており、夕食後は義歯を外し洗浄して清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を確認しながら定期的に声かけ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	
			(外部評価) 排泄や水分摂取量などの一覧表があり、できる限り誘導してトイレで排泄できる支援を試みている。ポータブルトイレは使用せず、トイレでの排泄を促している。水分摂取を積極的に行い、繊維質の多い食品を摂るようにするなど、自然な排泄ができるよう努めている。また、3日間排便のない場合は、下剤を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取をしっかりと行い、乳製品や繊維の多い食材や調理の工夫をしている。また、食後ゆっくりとトイレに座れる時間が取れるように支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間の希望や体調を確認して、タイミングを図り声かけ誘導をしている。当日の入浴が無理な場合は後日するなど無理強いをしないようにしている。	
			(外部評価) 3日に1回の間隔を基本として入浴することができる。排便などの状況に応じて、追加で入浴してもらう場合もある。夜間帯にも入浴できる対応をしており、生活習慣に合わせて夕方に入浴している利用者もいる。個別浴槽と座位で行えるシャワーなどを備え、車いすを使用している利用者にも2人体制で介助するなど、安心安全に入浴できるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の希望や訴え・体調などを配慮し、日中居室に戻り横になって休めるよう支援している。なお、居室にこもることがないよう様子を見て声かけ誘導し離床していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフが管理し、日付け・名前・時間等3回確認する体制にし、誤薬防止に努めている。又、処方薬や副作用などがスタッフにすぐわかるようファイルを作成し、症状の変化に対応できるよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの残存能力や楽しみ事を見つけ、ご家族や本人の要望を聞き出来る限り叶えられるように、気分転換等の支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物時利用者様を誘ったり、散歩の声かけを行い一緒に出かけている。また、外出や外食・バス旅行なども行っている。 (外部評価) 天気のいい日には、近くの中学校まで散歩したり、神社へ参拝をしたりしている。利用者の希望に応じて買い物に出かけており、月1回外出計画を立て、外食などを楽しめるよう心がけている。また、年1回利用者や家族と一緒にバス旅行に出かけられるよう支援しており、今年度は大島に出かけている。また、季節に応じて桜やコスモスでの花見、いも煮会、バーベキューなどのイベントも実施し、家族や地域住民にも参加してもらおう交流をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物時に日用品や嗜好品等利用者様と選び購入できるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、特別な事情がない限り自由に連絡できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングやダイニングに季節ごとの掲示物や花・人形等を置き、和やかに過ごせるようにしている。また、室温や調光にも気を付けている。</p> <p>(外部評価) 共用空間にはテレビやソファ、熱帯魚の水槽、ピアノなどが置かれくつろげる空間づくりがされており、利用者は自由な場所でのんびり過ごしている。ピアノを弾いて楽しむ利用者もいる。午後にはレクリエーションやリハビリ体操を採り入れており、利用者全員で過ごす場面も確保できている。訪問した1月には正月の飾りつけを行い、事業所内においても季節を感じることができる。また、床暖房が設置され暖かく、温度調整を行うなど利用者が快適に過ごせるよう努めている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) テレビを見たい方や横になって休みたい方、買い物や散歩に行きたい方など利用者様の要望に応じたケアを心がけている。また、中庭があり、自由に出て楽しむことができるようになっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具や馴染みの物を置き落ち着いて過ごすことができるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室はエアコン、収納棚、ベッド等が備え付けられており、テレビやたんす、鏡台、仏壇など馴染みの物を自由に持ち込み一人ひとりに合った空間づくりをしている。居室は広く、木造で温かみのある色調となっている。また、2か月に1回生け花を飾る工夫をしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) リビングダイニングには仕切りがない為、利用者様の様子が把握しやすいようになっている</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104720
法人名	有限会社ノリテック
事業所名	グループホームひがし野
所在地	松山市畑寺町丙68-1
自己評価作成日	平成 27 年 1 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流に力を入れている。祭り・文化祭・地域の清掃作業などにも積極的に利用者様と一緒に参加し交流を深めている。又、保育所や小中学校との交流も積極的に行っている。事業所や職員の都合を押し付けることなく、一人ひとりの訴えや要望に耳を傾け少しでも叶えられるよう個別ケアに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「誠心誠意」という基本理念を基にして、利用者の立場に立ってケアを実践する事業所として約10年間の実績を積み上げている。地域との交流を大切に、神社の掃除や地区行事への参加などを継続している。さらに、事業所の近くには、地域の子供達が集まる駄菓子屋を備えているデイサービスを運営しており、地域住民にとって必要と感じられる地域密着のサービスを展開している。管理者と職員は利用者への関わり方に気を配りながら、家族と覚えてもらえるような関わりを行うなどアセスメントや利用者の思いを踏まえたケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひがし野

(ユニット名) コスモス

記入者(管理者)
氏名 泉 三男

評価完了日 27 年 1 月 8 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 朝礼やカンファレンス時全職員で斉唱し、理念を念頭に置いたチームケアの実践に努めている。	
			(外部評価) 「誠心誠意」という基本理念と5つの項目を作成して各所に掲示し、理念に沿った個別ケアを実践できるよう各ユニット長と職員が話し合いを持っている。また、月間目標を職員主導で立案し、管理者はアドバイスをしながら日々個別ケアに取り組む仕組みができています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の祭りや文化祭等の行事に積極的に参加し地域交流に努めている。	
			(外部評価) 自治会に加入し、神社の掃除をしたり地域行事に参加したりするなど地域との交流を大切にしている。事業所には回覧板も回ってきており、地域の一員として認識されている。また、三味線やフラダンスなど幅広いボランティア団体の訪問があったり、地区の運動会にも参加したりするなど地域とのつながりを深めている。保育所や小・中学校との交流があり、職員は昔遊びを教える先生として喜ばれている。さらに、事業所では地域の高齢者との交流会を実施しており、幅広い世代との交流にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議に地域の方やご家族に参加していただき、認知症への理解を深めて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域の方や包括支援センターの方にも参加していただき、利用者様の状況や行事報告を行い、毎回課題を出し話し合う場を設けている。	
			(外部評価) 運営推進会議は民生委員、市担当者や地域包括支援センター職員のみならず、利用者や家族が複数名参加して開催されている。会議は夕方開催し、同法人が運営するデイサービスを使用している。会議では事業所に関する情報提供を行うほか、毎回議題を決めて参加者と話し合い、話し合った結果を次の会議で報告している。また、会議に合わせて認知症に関する勉強会を開催する工夫をしている。幅広く参加者が得られるよう、管理者は近隣住民への参加の呼びかけを検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、ホームの現状や取り組み内容等報告し意見を伺っている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市担当者や地域包括支援センター職員に出席してもらい意見交換をしているが、長年に渡り事業所運営をしているため、相談や情報提供の関わりは少なくなっている。地域包括支援センターとは介護支援専門員が連携し、相互の情報提供ができている。	市担当課との連携は重要であり、積極的に相談や情報提供をするなど相互の協力関係が構築できることを期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所内でも勉強会を開き身体拘束に対する理解を深めている。	
			(外部評価) 玄関は夜間のみ施錠し、日中は利用者は自由に入出ることができる。管理者は身体拘束に関する職員への意識付けを行いながら日々の業務を実践しており、職員から利用者への言葉かけや表情、態度にも気をつけるよう注意を促し、笑顔で接するよう努めている。職員が身体拘束等の外部研修に参加した内容は、カンファレンスなどの際に伝達研修を実施し情報を共有している。	身体拘束防止や感染症に関するマニュアルなど古いものを使用しており、最新の情報を入手した際には情報を更新して活用することを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、事業所内でも勉強会を開き虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加しやすいように、希望者があればシフトの調整を行い学べる機会が増えるようしている。又、学んだ内容を共有できるよう勉強会を開いている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、ケアマネや管理者が不安や疑問がないようしっかり説明している	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月写真付きの書面で日常の様子を報告し必要があればご家族に判断していただき、可能な限り要望にお応えできるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所には家族の面会が多く、職員に話しやすい雰囲気や関係づくりを心がけており、直接意見を言ってもらうことが多い。昨年の12月には家族へのアンケートを実施し、ご意見や感謝の言葉を多くいただいている。出された意見は運営に反映するよう努めている。また、家族には毎月写真入りの便りを添えて日頃の様子を書いた手紙を送付している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンスや運営推進会議に職員が参加し積極的に意見が出せるようにしている。また、問題が生じれば直ぐに解消できるようにしている。	
			(外部評価) ユニットカンファレンスやミニカンファレンスの開催時に職員から意見を聞いたり、意見ノートなどを活用して日頃から意見を聞きやすい工夫をしている。年1回職員との個人面談を実施しており、その際に意見を伝えることもできる。職員から出された意見は、月1回の管理者会に報告し、職場の方針や問題点などを話し合い、改善の方向で検討をする場が設けられている。また、新入職員への研修、認知症、マナーなどの勉強会を定期的実施し、職員のスキル向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個人面談を設け目標や待遇面等を代表者と話し合う機会を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内の研修に外部講師を招いたり、外部研修の内容をカンファレンス時に発表するなどより良い介護に活かせるよう心掛けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修に参加したり、他施設の見学者に意見を聞くなどしてより良いサービスの提供が出来るよう心掛けている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に利用者様の情報を共有し、初期段階で関わる時間が多く取れるようにして、少しでも早くホームに慣れ安心して生活が出来るよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に施設の方針等説明し、本人やご家族の意向等を聞き、不安や疑問の解消に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人やご家族の意向要望等を聞きどのようなサービスが必要か検討して出来る限りニーズに即したサービス提供が出来るよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事の下ごしらえや後片付け・掃除洗濯など一緒に行い、生活の主体となっていただけるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月ご家族に手紙を書き日頃の様子等報告し、意見を伺っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出時昔住んでいたところを通りながら昔の話を一緒にしたり面会は特別な事情がない限り受け入れている。	
			(外部評価) 知人や友人の面会があり、快く受け入れをしている。利用者の希望に応じて、友人宅を訪問できるよう支援しており、相互に行き来できる関係も支援している。また、利用者の自宅や生家の近くに出かけられるよう支援しており、自宅へ帰宅しての宿泊や外泊を自由に行うことができる。事業所には昔ながらの公衆電話が設置されており、家族等に電話できるよう配慮されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士がトラブルになりそうな時は必ず職員が間に入り、互いの話を傾聴し未然に防ぐよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も電話連絡し行事にお誘いしたり、いつでも来所出来るよう声かけをしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 必要に応じ一対一で話ができる時間を設け、本人の要望や思いを聞き、出来る限り叶えられるよう努めている。 (外部評価) センター方式を活用し、利用者として1対1で話せる場を設け利用者への聞き取りをしてアセスメントをしている。各ユニットで利用者毎の「職員にして欲しいこと、自分でしたいこと」などに視点を絞った支援にも取り組んでおり、カンファレンスの開催時に利用者毎の担当者が紹介して情報を共有し、利用者の思いを実現できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今まで使用していた家具や人形・置物等を居室に設置し、環境の変化を出来るだけ少なくなるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々のバイタル測定や、排泄・食事・水分摂取量の把握、入浴時や更衣時に身体の状態把握に努めている。一人ひとりの出来ることを探し一緒に出来るよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にカンファレンスなどで職員や家族との話し合い背意見を出し合い常に本人の状況変化に気を配り介護計画に反映させている。	
			(外部評価) モニタリングの方法を昨年7月に変更し、モニタリングの内容や日々の情報を基にしてカンファレンスで検討している。利用者毎の担当者が毎月モニタリングの判断をしているが、カンファレンスの際に他の職員から別の意見が出されることもあり、検討の結果介護計画が変更されない場合もある。また、6か月に1回介護計画の見直しをしている。	カンファレンスはなるべく多くの職員が出席できるよう工夫して開催しており、夜勤者には事前に意見を提出してもらっているが、夜勤者からの意見が反映された記録が残されていないため、夜勤者の意見を交えて検討したことを記録に残すことを望みたい。また、より良いモニタリングが実施できるよう複数名で確認する体制づくりなどを検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や変化は個人記録に記入し情報の共有をして、必要に応じカンファを開き意見を出し合って介護計画に反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ケアマネと相談し、ニーズに応じた対応が出来るよう努めている。又、同事業所が運営しているデイサービスとの交流等臨機応変なサービス提供に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内行事への参加や買い物等本人のレベルに合わせた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関による24時間体制の医療が受けることが出 来、本人や家族が希望すれば他の病院への受信もできるよ う支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を選択することがで きる。受診は家族の同行を基本としているが、同行できな い場合は職員が受診介助している。また、往診の対応がで きる協力医と協力体制が整っており、協力医をかかりつけ 医に変更する利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 少しでも変化があれば直ぐに電話をし、状況を説明して指 示を仰いでいる。医師・看護師と気軽に相談が出来、情報 の共有を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入・退院時共に病院側としっかりとカンファを開き情報の 共有が出来るよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ホーム内での勉強会にも取り上げ職員の理解に深めてい る。また、事前に協力医療機関の医師が家族を交え説明会 を開き、ご家族の意見を聞き方針を決め対応している。	
			(外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、利用開始時等に事業所 として対応できる内容を説明し、必要に応じて同意書をも らっている。今までに事業所で3名の看取りを経験してい る。協力医である在宅往診医と連携し、急変時には医師が すぐに駆けつけられる協力体制が整えられており、医師か ら対応方法についても指導を受けている。また、看取りや 緊急時の対応マニュアルを作成し、家族を交えて終末期の 関わりなどの話し合いができており、職員の負担の軽減に も繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 地域での応急手当の研修に順次参加し、又ホーム内でも勉強会を開いている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、いざという時に対応できるよう準備している。 (外部評価) 避難経路のマップを整備しており、消火器も目に付く場所に置いている。消防訓練や避難訓練への地域住民の参加はないが、住民は事業所に地域の福祉的避難所としての機能があることを理解している。徘徊で事業所の外に出るケースを想定した模擬訓練も実施し、10分以内であれば利用者を発見できる体制を整え、利用者を探すための写真などもすぐに用意できる体制を整えている。	夜間の災害発生など、職員だけでの利用者の避難誘導には限界があると考えられるため、夜間を想定した避難訓練に地域住民への参加を呼びかけ、一緒に訓練できることを期待したい。また、地域住民などの協力者を得ることにより、利用者や家族、職員、地域住民にとって安心安全な地域での生活に繋がることが考えられる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 等事業所の理念に基づき利用者様一人ひとりの生活を大切にしながら支援している。 (外部評価) 居室の入口やトイレ、浴室のドアは必ず閉めるようにしている。トイレ誘導は小声で「ちょっと一緒に行きましょう」などと声かけし、他の利用者に気づかれないよう配慮している。トイレ介助など職員が1対1で行い、利用者のプライバシーが保たれるよう努めている。管理者等は言葉かけに関する意識が高く、普段から注意を促すことで利用者の尊厳が保持される支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員や施設側の都合ではなく、選択肢を用意して本人の意思により決定していただくよう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ケアプランに基づき日々のケアを行うが訴えや要望を聞き臨機応変にケアを行っている。職員同士情報共有し、その人に合った支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人に衣服を選んでいただいたり、マニキュアを塗ったり本人の希望を取り入れその人らしい身だしなみができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理本を一緒に見たり、食べたい物を聞き可能な限り要望に沿えるよう努めている。	
			(外部評価) 普通食、きざみ食、トロミ食など利用者の状態に合わせた食事を提供している。献立を事前に作成せず、その日毎にメニューを決め、利用者のできることを手伝ってもらいながら職員が調理している。利用者が嫌いなものがある場合は、別の食材を使う対応をしている。利用者は同じ食卓を囲み、職員と一緒に会話をしながら食事をしている。食事の時間帯には童謡や民謡などの音楽を流し、ゆったりとした雰囲気づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 日々の習字や水分の摂取量をチェックし体調変化に気をつけながら対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは定着しており、自分で出来にくい部分は職員が介助している。夜間は義歯を洗浄し清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 尿意・便意がある方には定期的に声かけを行い、尿意・便意がない方もトイレに座って頂きトイレでの排泄が出来るよう支援している。	
			(外部評価) 排泄や水分摂取量などの一覧表があり、できる限り誘導してトイレで排泄できる支援を試みている。ポータブルトイレは使用せず、トイレでの排泄を促している。水分摂取を積極的に行い、繊維質の多い食品を摂るようにするなど、自然な排泄ができるよう努めている。また、3日間排便のない場合は、下剤を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取や乳製品・繊維の多い食品を摂取できるよう心掛けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間帯等本人に選んでいただき、希望に添えるよう支援している。又一人介助では難しい方は2人介助で行っている。	
			(外部評価) 3日に1回の間隔を基本として入浴することができる。排便などの状況に応じて、追加で入浴してもらう場合もある。夜間帯にも入浴できる対応をしており、生活習慣に合わせて夕方に入浴している利用者もいる。個別浴槽と座位で行えるシャワーなどを備え、車いすを使用している利用者にも2人体制で介助するなど、安心安全に入浴できるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は出来る限りリビングで過ごして頂き、夜間よく眠れるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬・飲み忘れがなよう何重にもチェックし服薬の支援をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生け花やヨガ等個々に合ったレクを提供している。又、観劇や買い物等本人の要望に応じ、気分転換が出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の要望に応じた支援をしている。 (外部評価) 天気のいい日には、近くの中学校まで散歩したり、神社へ参拝をしたりしている。利用者の希望に応じて買い物に出かけており、月1回外出計画を立て、外出などを楽しめるよう心がけている。また、年1回利用者や家族と一緒にバス旅行に出かけられるよう支援しており、今年度は大島に出かけている。また、季節に応じて桜やコスモスでの花見、いも煮会、バーベキューなどのイベントも実施し、家族や地域住民にも参加してもらおう交流をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 証額は個人の財布に入れ詰所にて保管している。買い物や外出時本人の希望に応じ使う事が出来るよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があればご家族の了承を得たうえで電話が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングダイニングは全体が見渡せるようになっており、季節感のある庭や山の風景を楽しめるようになっている。	
			(外部評価) 共用空間にはテレビやソファ、熱帯魚の水槽、ピアノなどが置かれくつろげる空間づくりがされており、利用者は自由な場所でのんびり過ごしている。ピアノを弾いて楽しむ利用者もいる。午後にはレクリエーションやリハビリ体操を採り入れており、利用者全員で過ごす場面も確保できている。訪問した1月には正月の飾りつけを行い、事業所内においても季節を感じることができる。また、床暖房が設置され暖かく、温度調整を行うなど利用者が快適に過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テーブル席やソファ席があり、テレビを見たり歌を聞く等個々に自由に過ごせるような場所作りをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使用していた家具を持ち込んでいただき、写真や好みの飾り物を置き居心地良く過ごせるよう配慮している。	
			(外部評価) 居室はエアコン、収納棚、ベッド等が備え付けられており、テレビやたんす、鏡台、仏壇など馴染みの物を自由に持ち込み一人ひとりに合った空間づくりをしている。居室は広く、木造で温かみのある色調となっている。また、2か月に1回生け花を飾る工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 職員が利用者様個々の身体状況を把握しており、いつでも安全に生活が出来るよう工夫している。	